



令和3年度
群馬県 環境森林部

目 次

本 編

1. ぐんまの森林 -----	1
(1) 関東一の森林県	
(2) 首都圏の水がめ	
(3) 豊かな自然	
(4) 首都東京への近さ	
(5) 木材資源の充実	
2. ぐんまの林業 -----	5
(1) 林業の振興	
① 森林整備の推進	
② 森林経営計画作成の取組	
③ 林内路網の整備	
④ 林業の機械化	
⑤ 木材の生産	
⑥ 森林整備の担い手	
⑦ 木材需要の状況	
⑧ 木材の流通・加工	
⑨ 木材の利用	
⑩ 県有林及び県行分収造林	
(2) きのこ生産の振興	
3. 森林の保全と森林災害・被害 -----	15
① 保安林	
② 治山事業	
③ 松くい虫被害	
④ ツキノワグマによる剥皮被害	
⑤ ナラ枯れ被害	
4. 県民参加の森林づくり -----	18
① 緑化の推進	
② 森林公園	
③ 森林ボランティア	
5. ぐんま緑の県民税 -----	19

資料編

1. 群馬県の森林資源
 - (1) 所有形態別森林面積と蓄積
 - (2) 民有林樹種別森林面積

2. 全国から見た群馬県の林業
 - (1) 森林資源の全国対比
 - (2) 森林整備
 - ① 民有林における造林の全国対比
 - ② 民有林における間伐の全国対比
 - (3) 林産物の全国対比
 - (4) 林道網の全国対比
 - (5) 林業経営体の全国対比
 - (6) 林業産出額
 - (7) 全国における群馬県の順位

3. 群馬県環境森林部行政機構
 - (1) 機構図
 - (2) 各所属所在地・連絡先

※本文中の数字の単位未満は四捨五入することを原則としました。
したがって、総数(または計)と内訳が一致しない場合があります。

<表紙の写真>

- ・奥利根上流の森林とダム湖

<背表紙の写真>

- ・森林ボランティア体験会(憩の森・森林学習センター)

1. ぐんまの森林

(1) 関東一の森林県

県土面積の3分の2を占める森林は42万7千ヘクタールで、森林面積、森林率とも関東地方の中では最も高い順位にあります。

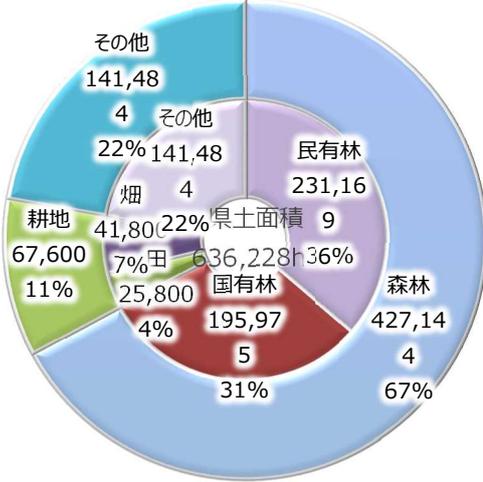


図1 土地利用の状況 (単位: ha)



図2 宇宙から見た群馬県の姿

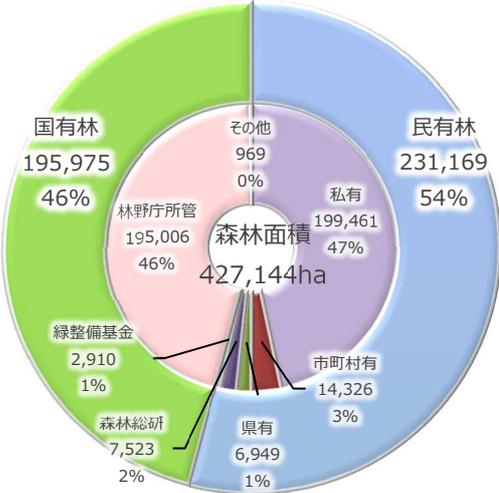


図3 保有形態別面積 (単位: ha)

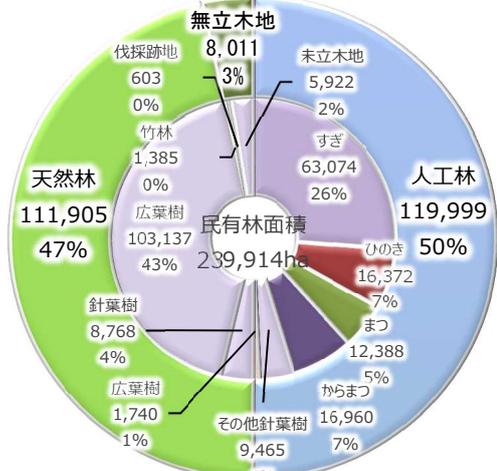


図4 民有林樹種別面積 (単位: ha)



図5 関東地方1都6県の森林面積 (単位: 千ha)

(2) 首都圏の水がめ

群馬県の森林は、利根川上流に位置し、首都圏の重要な水源となっています。

このため、群馬県の森林には水源涵(かん)養機能の発揮が強く求められています。

群馬県内の森林の貯水能力は、県内九つのダム合計貯水量の約2倍の12億トン、水源涵(かん)養機能の評価額は約4,800億円と試算されています。



図6 奥利根上流の森林とダム湖

(3) 豊かな自然

群馬県には尾瀬国立公園、上信越高原国立公園及び日光国立公園の3つの国立公園と、妙義荒船佐久高原国定公園があります。

また、上毛三山と呼ばれる赤城山、榛名山、妙義山をはじめとする多くの山々は豊かな森林に覆われ、優れた自然景観を有しています。



図7 前橋から赤城山を望む



図8 尾瀬ヶ原から至仏山を望む

尾瀬は、美しい景観とともに貴重な生態系を有する「自然の宝庫」です。

平成19年に日光国立公園から分離独立し、新たな国立公園として指定されました。

(4) 首都東京への近さ

群馬県は本州のほぼ中央に位置しています。大消費地、東京から約100kmと、恵まれた立地条件にあります。

関越自動車道、上信越自動車道に加え、北関東自動車道の開通により東京を經由せずに東北方面や中京・関西方面と接続でき、東西南北全方面への高速道路アクセスが便利になりました。

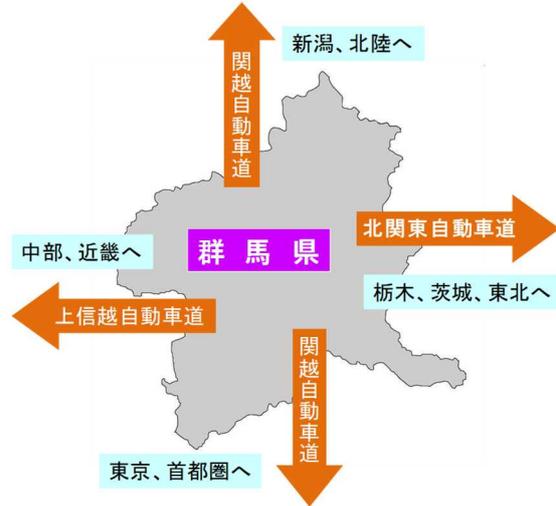


図9 群馬県の高速度路アクセス

(5) 木材資源の充実

民有人工林では、伐採して利用可能な41年生以上の森林が80%を占めています。特に、スギのヘクタール当たり蓄積量は500m³を超えています。この豊富な木材資源の活用が、これからの課題となっています。

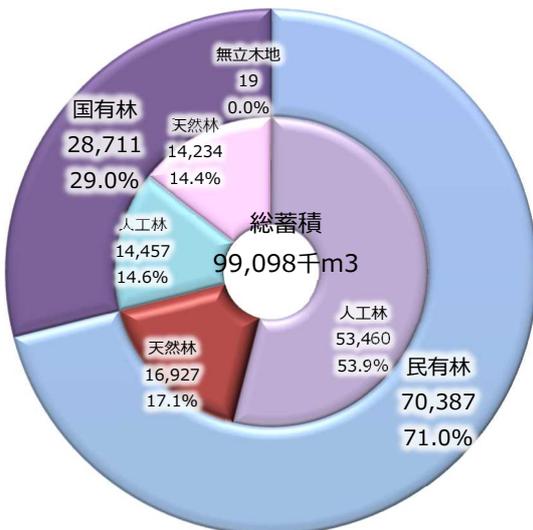


図10 民有林・国有林別蓄積 (単位: 千m³)

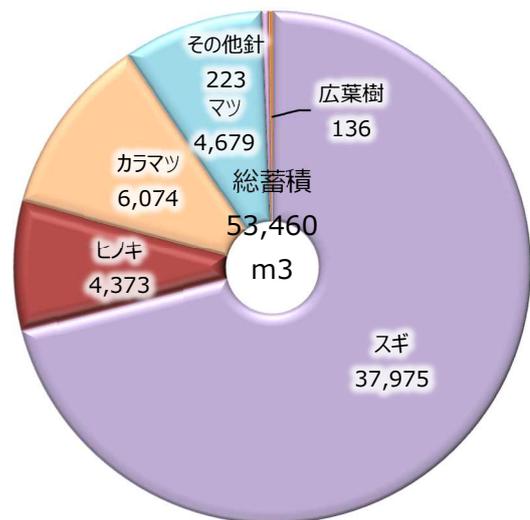


図11 民有人工林樹種別蓄積 (単位: 千m³)

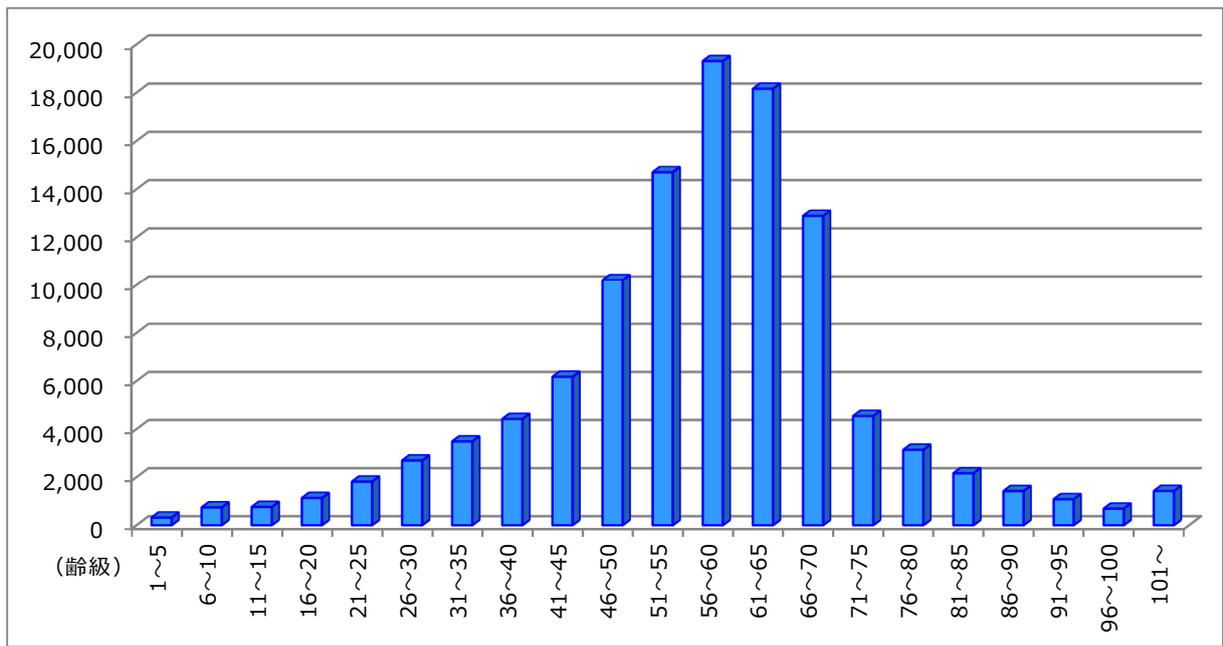


図 12 民有人工林 林齢別面積

(単位：千㎡)

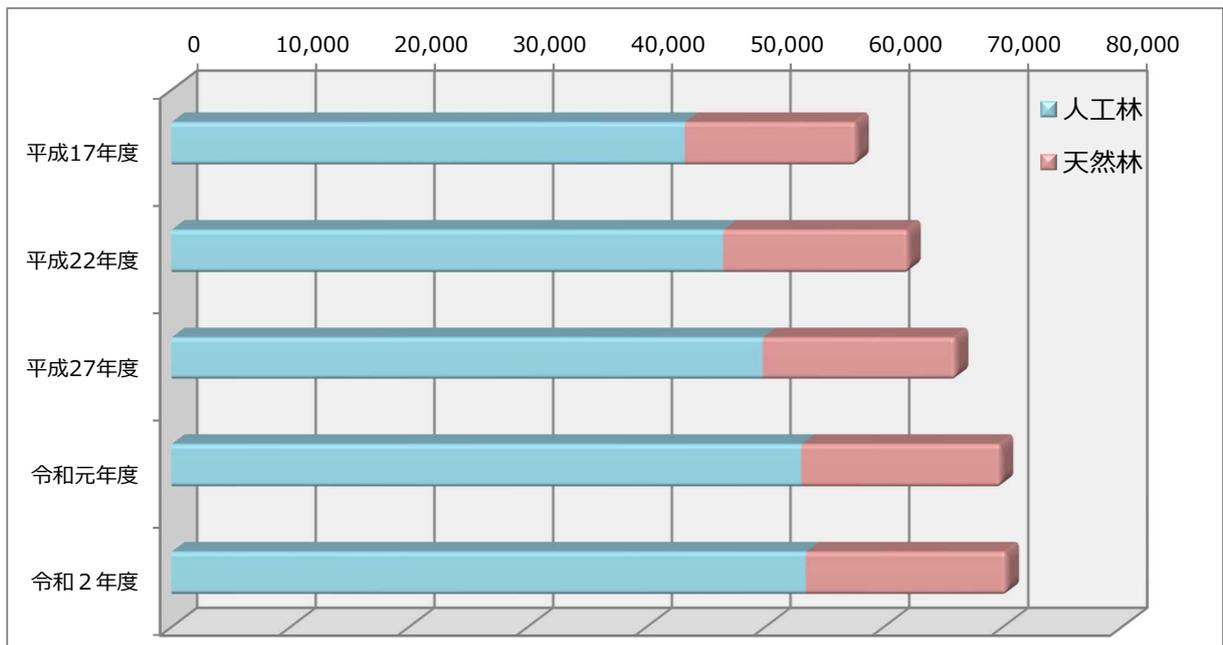


図 13 民有林蓄積推移

2. ぐんまの林業

(1) 林業の振興

■ 森林整備の推進

木材は再生産可能・持続可能な貴重な資源です。このため、間伐等の手入れを行って、元気で豊かな森林を育てています。

また、近年、問題となっている地球温暖化を防止するため、その主な原因となっている二酸化炭素を吸収・固定する森林の機能に期待が寄せられています。



手入れが必要な森林
(光が差し込まず、下草が消失)



手入れを行った森林
(光が差し込み、樹木の生長が旺盛)

(単位：ha)

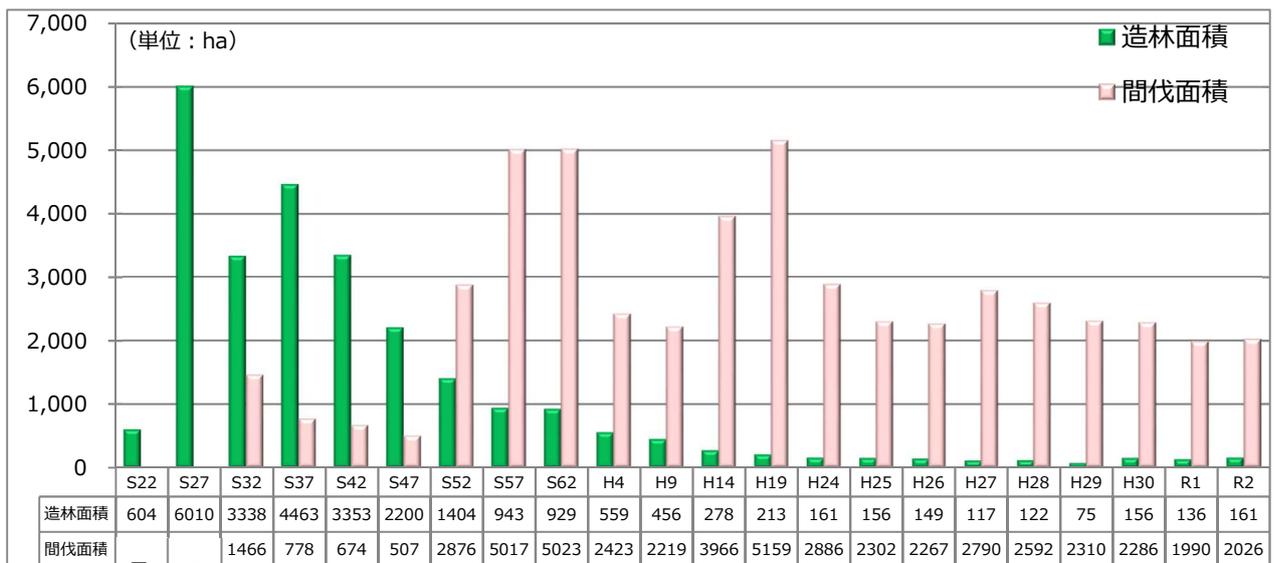


図 14 民有林の造林・間伐面積の推移

京都議定書に基づく森林吸収量の実績 (平成 17[2005]~24[2012]年度)				群馬県地球温暖化対策実行計画の目標 (平成 23[2011]~32[2020]年度)			
年 度	日本の吸収量	群馬の吸収量	備考				
平成17年度 (H19報告)	966万炭素トン (3,542万CO ₂ トン)	93万炭素トン (341万CO ₂ トン)	(全国順位第31位) 民:55千炭素トン 国:38千炭素トン	試 行 期 間	民 有 林	民有林面積 227千ha (吸収源 対象面積 ※1 140千ha)	吸収量※2 686千 t-CO ₂ /年
平成18年度 (H20報告)	1,015万炭素トン (3,722万CO ₂ トン)	151万炭素トン (554万CO ₂ トン)	(全国順位第22位) 民:90千炭素トン 国:61千炭素トン				
平成19年度 (H21報告)	1,090万炭素トン (3,722万CO ₂ トン)	219万炭素トン (803万CO ₂ トン)	(全国順位第18位) 民:131千炭素トン 国:88千炭素トン				
平成20年度 (H22報告)	1,220万炭素トン (4,473万CO ₂ トン)	241万炭素トン (884万CO ₂ トン)	(全国順位第16位) 民:144千炭素トン 国:97千炭素トン				
平成21年度 (H23報告)	1,252万炭素トン (4,591万CO ₂ トン)	228万炭素トン (836万CO ₂ トン)	(全国順位第23位) 民:167千炭素トン 国:61千炭素トン	第 1 約 束 期 間	国 有 林	国有林面積 197千ha	吸収量※2 488千 t-CO ₂ /年
平成22年度 (H24報告)	1,328万炭素トン (4,869万CO ₂ トン)	260万炭素トン (953万CO ₂ トン)	(全国順位第25位) 民:163千炭素トン 国:98千炭素トン				
平成23年度 (H25報告)	1,392万炭素トン (5,104万CO ₂ トン)	199万炭素トン (730万CO ₂ トン)	(全国順位第25位) 民:98千炭素トン 国:101千炭素トン				
平成24年度 (H26報告)	1,410万炭素トン (5,170万CO ₂ トン)	237万炭素トン (869万CO ₂ トン)	(全国順位第25位) 民:115千炭素トン 国:122千炭素トン				
					計	森林面積 424千ha	吸収量※2 1,174千 t-CO ₂ /年

図 15 森林吸収源対策の実績と目標

※1:吸収源の対象となる森林は、1990年以降に整備がなされた森林
 ※2:群馬県で独自に試算。単位の「t-CO₂」は、二酸化炭素トン

「京都議定書」において、日本の第1約束期間での温室効果ガス排出量の削減目標は基準年（平成2年）比6%とされました。そのうちの3.8%が森林による二酸化炭素吸収量として算入できることとされ、群馬県でも森林整備を通して3.8%を確保するための取組を行いました。

第1約束期間での基準年と比べた削減量は、森林による二酸化炭素吸収量の3.8%を含め、日本全体として8.4%となり、削減目標を達成することができました。

現在、群馬県においては、群馬県地球温暖化対策実行計画（平成23~32年度）により、民有林と国有林を合わせて1,174千t-CO₂/年を、森林による二酸化炭素吸収量の目標として森林の整備を進めています。

また、平成32年以降の地球温暖化対策の国際的枠組みとされる「パリ協定」で、日本は平成42年までに26%の削減（平成25年比）、うち森林吸収源対策で2%の確保を目標としています。

■森林経営計画作成の取組

集約的・効率的な森林経営を行うため、森林経営計画の作成を推進していきます。

森林経営計画の実行性を確保するため、計画の作成にあたっては個別に集約化説明会等を開催し、森林所有者等に対して森林施業プランナー等が具体的な施業の提案を行います。

また、行政側も説明会に参加し森林所有者の生の意見を把握することで、森林整備の施策に繋げていきます。

■ 林内路網の整備

民有林の人工林では、41年生以上の森林が面積で8割を占めており、木材資源は質的、量的に充実しています。

地域資源である県産木材を利用することは、地域の森林が再び育成される森林循環へ繋がると共に、健全に育成された森林は、水源の涵養や県土の保全などの公益的な機能を発揮して人々に多大な恩恵をもたらします。

そのため、基幹的役割を担う林道から、これを補完し、枝状に伸びる幅の狭い作業道まで、地形や用途に応じた様々な路網の整備を推進しています。

林道は、林業関係者や森林とのふれあいを求める人々が通行する恒久的な道路で、木材生産や森林整備を進める上で基幹となる道です。



作業道は、木材生産や森林整備のために林業機械が走行する道で、簡易な構造で整備がされています。

	林道		作業道									
			林業専用道規格 (W=3.5m)		林業経営 (W=3.0m)		葉脈路 (W=2.0、2.5m)		計		架線	
	延長 (m)	事業費 (千円)	延長 (m)	事業費 (千円)	延長 (m)	事業費 (千円)	延長 (m)	事業費 (千円)	延長 (m)	事業費 (千円)	延長 (m)	事業費 (千円)
平成28年度	3,532	972,672	0	0	24,263	161,025	135,486	342,034	159,749	503,059	0	0
平成29年度	7,784	1,100,579	0	0	19,388	94,248	148,042	298,889	167,430	393,137	0	0
平成30年度	5,894	751,375	0	0	16,691	108,114	139,952	332,001	156,643	440,115	0	0
令和元年度	2,686	856,812	0	0	25,472	144,871	137,519	281,196	162,991	426,067	0	0
令和2年度	4,472	813,552	0	0	27,250	149,403	124,437	244,192	151,687	393,595	0	0
5カ年計	24,368	4,494,990	0	0	113,064	657,661	685,436	1,498,312	798,500	2,155,973	0	0

路網整備（開設）の実績

■ 林業の機械化

いろいろな機能を持った高性能林業機械の導入と林内路網の整備により、低コスト作業システムの定着を図っています。

これによって、木材生産効率の大幅な向上が期待されています。



新型フォワーダによる木材の積み込み、運搬

プロセッサによる木材生産

区 分	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度
プロセッサ	38	40	45	49	50	49	48	51	55	57
ハーベスタ	7	10	12	15	14	15	16	17	22	22
フォワーダ	50	53	59	65	63	63	58	61	67	67
タワーヤード	4	5	5	5	5	5	5	5	5	5
スキッド	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
スイングヤード	22	25	24	26	26	29	31	30	30	28
フェラーバンチャ	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3
その他の高性能林業機械		1	1	3	7	12	15	18	20	26
計	126	139	151	168	170	178	178	187	204	211

県内の高性能林業機械所有台数

■ 木材の生産

素材生産量については、昭和41年の89万2千 m^3 をピークに減少してきました。

しかし、平成18年以降は景気悪化の影響を受けた平成21年を除いて、上昇に転じています。

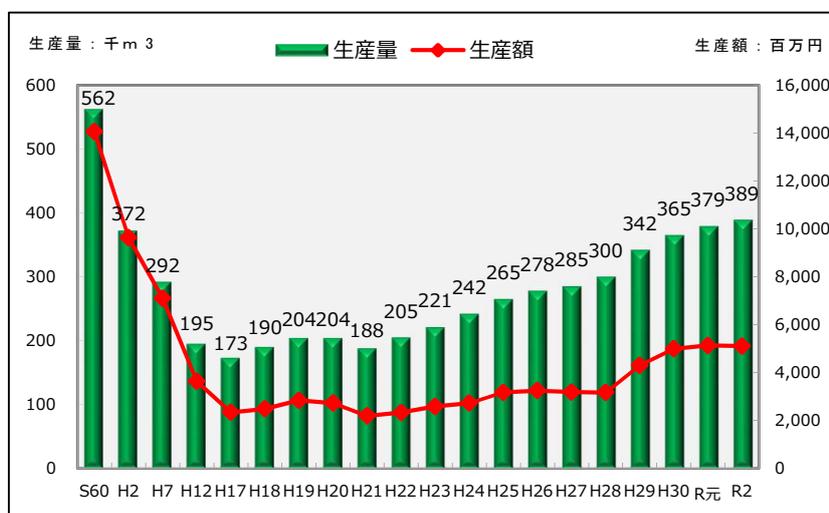


図 15 素材生産の推移

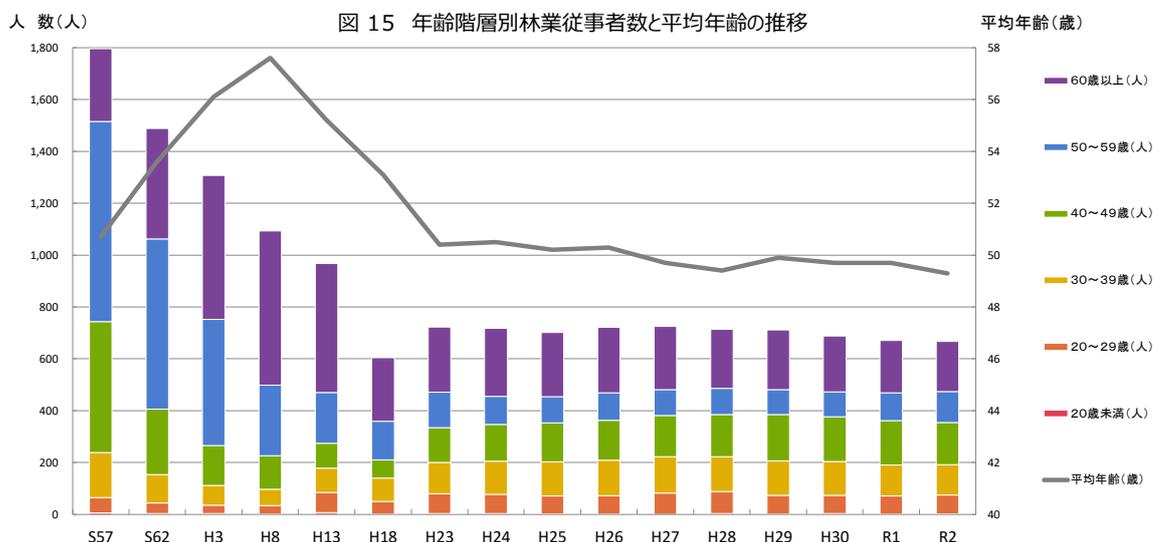
■ 森林整備の担い手

林業県ぐんまの現場を支えているのは、県内各地の森林組合や民間の林業会社、個人事業主のもとで働く林業従事者のみなさんです。

昭和57年度にはおよそ1,800人の林業従事者がいましたが、林業不振により減少の一途をたどり、平成18年度にようやく底を打ちました。

平成19年度から現在までは、700人前後で推移しています。今後、およそ3分の1を占める60歳以上の林業従事者は、退職等による減少が見込まれ、これによる全林業従事者数の減少が懸念されます。

そこで、群馬県林業労働力確保支援センターをはじめとする関係団体と協力して、林業への就業相談や新規就業者確保のための研修会、就労環境の改善支援、林業の基礎から応用まで従事者のレベルに応じた技能・技術向上研修を開催するなど、森林・林業の未来を担う新たな林業従事者の確保・育成に努めています。



ぐんま林業就業支援研修

これから林業への就業を希望する方が対象。
チェーンソーや刈り払い機の安全講習を受けた後、林業の現場で実際の作業体験を行う研修。



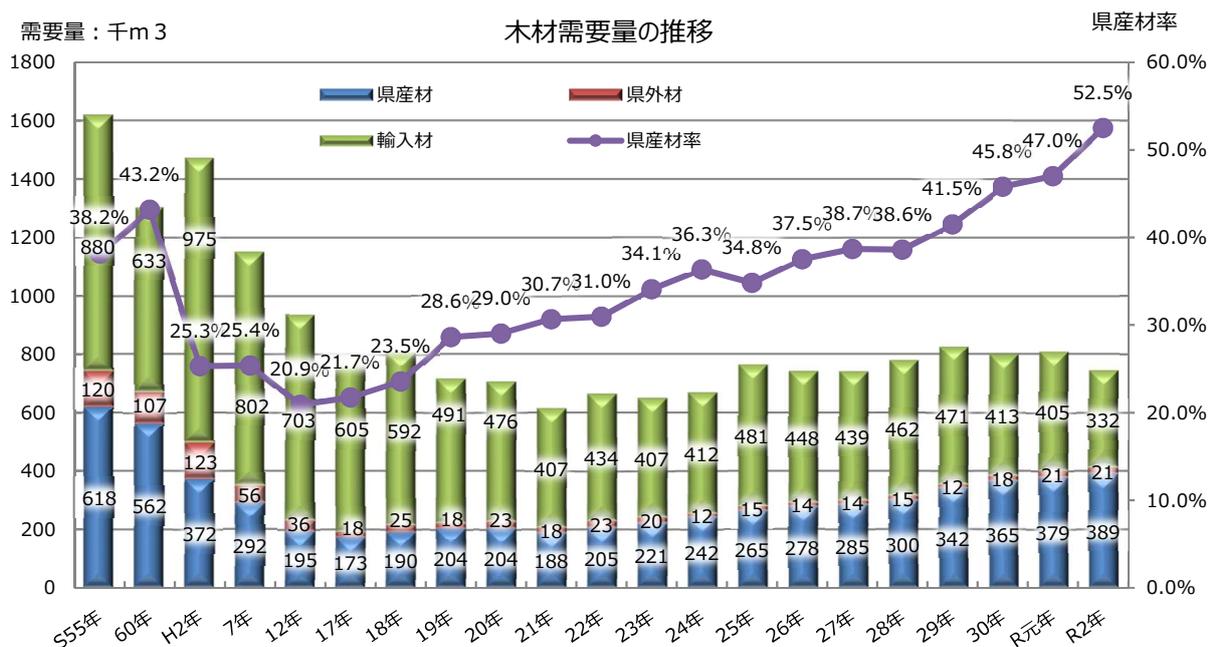
高性能林業機械の操作等に関する研修

数年の現場経験を経た方が対象。
現場作業の効率アップに必要な高性能林業機械の操作技術を学ぶ研修で、さらなる技能向上を目指す。

■ 木材需要の状況

木材需要は、昭和48年の190万4千m³をピークに減少傾向が続き、平成21年には61万3千m³まで落ち込みましたが、その後徐々に回復し、令和2年には74万1千m³になりました。

令和2年の部門別木材需要は、製材用が59.8%を占め、チップ用が20.6%、しいたけ原木が1.2%、合板・床板用が0.2%となっています。



■ 木材の流通・加工

需要者ニーズに対応した木材供給を行うため、中間土場や原木市場、製材工場などの流通・加工施設の整備や流通の合理化を推進しています。



群馬県産材センター（原木市場、製材工場）

県内最大の原木市場と大型の製材工場からなる県産材の流通加工拠点施設で、平成18年に本格稼働しました。



渋川県産材センター

平成23年に竣工し、全国初となるA材からC材までの全量一括定額買取りシステムで、県産材の有効利用に取り組んでいます。



わたらせ森林組合地域材加工センター

群馬県東毛地区の県産材加工の拠点となる施設で、平成 27 年に稼働しました。



ウッドビレジ川場製材工場

群馬県北毛地区の県産材加工の拠点となる施設で、平成 28 年に稼働しました。



桐生木材ヤード

群馬県東毛地区の A 材～C 材まで一括集荷し、直送販売する木材流通販売拠点となる施設で、令和元年度に竣工しました。



前橋バイオマス燃料（チップ加工施設）

丸太をチップに加工し、木質バイオマス発電所へ供給する施設で、平成 29 年度に竣工しました。

■木材の利用

県産木材の需要拡大を図るため、県が発注する教育関連施設の建設や公共工事において率先して県産木材を使用しています。

また、民間需要に対しては、「ぐんま優良木材」を使用した住宅の建設支援のほか、「親と子の木工広場」など、木材利用に関する普及啓発活動を行っています。



ぐんま型木製ガードレール

単位：m3

		年度						
		H26	H27	H28	H29	H30	R 元	R2
県発注	土木工事関係	3,149	2,237	1,734	1,536	1,785	1,692	2,372
	建築工事関係	152	239	44	118	198	229	176
補助事業	ぐんまの木で家づくり支援事業	12,782	14,509	13,896	13,813	12,886	13,064	5,667

県産木材の利用量



「ぐんま優良木材」は、県内の森林から生産された素材を製材し、乾燥させた木材製品で、ぐんま優良木材品質認証センターが、ぐんま優良木材製品品質規格基準に基づき、品質や寸法精度、含水率などを検査し、合格と認めた木材製品です。

この製品を使用した新築住宅に対して、令和2年度までは「ぐんまの木で家づくり支援事業」により支援、また、令和3年度からは「ぐんまゼロ宣言住宅促進事業」として、環境性能の高い住宅の建設に対し支援をしています。

単位：棟、千円

区分年度	H26	H27	H28	H29	H30	R 元	R2
構造材補助	766	866	867	865	772	790	277
	307,850	346,200	321,550	285,850	234,550	238,000	99,200
内装材補助	45	49	60	54	52	37	82
	5,059	6,576	7,865	7,106	996	4,404	9,926

「ぐんまの木で家づくり支援事業」実績

県有林及び県行分収造林

県が所有し、経営している県有林は、11市町村に11か所(13経営区)、4,336クタールあります。

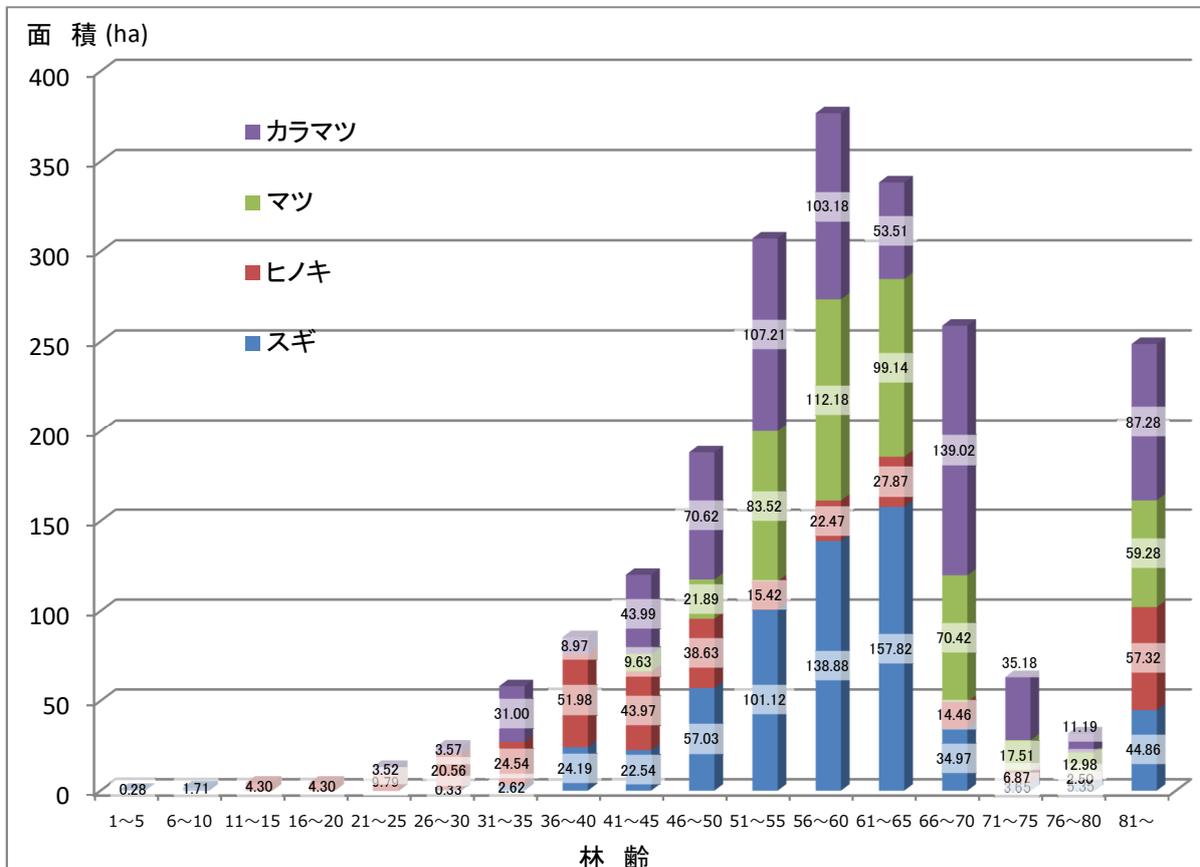
県有林のうち、人工林では、51年生以上が全体の76%を占めるなど、木材資源の充実が進んでいます。

(単位 面積:ha 蓄積:m³)

区 分		県有林	
		面積	蓄積
総数		4,336	1,265,345
立木地	スギ	595	355,454
	ヒノキ	345	112,883
	マツ	487	188,032
	カラマツ	698	252,700
	その他針葉樹	39	9,910
	人工広葉樹	47	5,189
	天然林	2,117	341,177
	計	4,327	1,265,345
無立木地・除地等		9	



おおげた大桁県有林



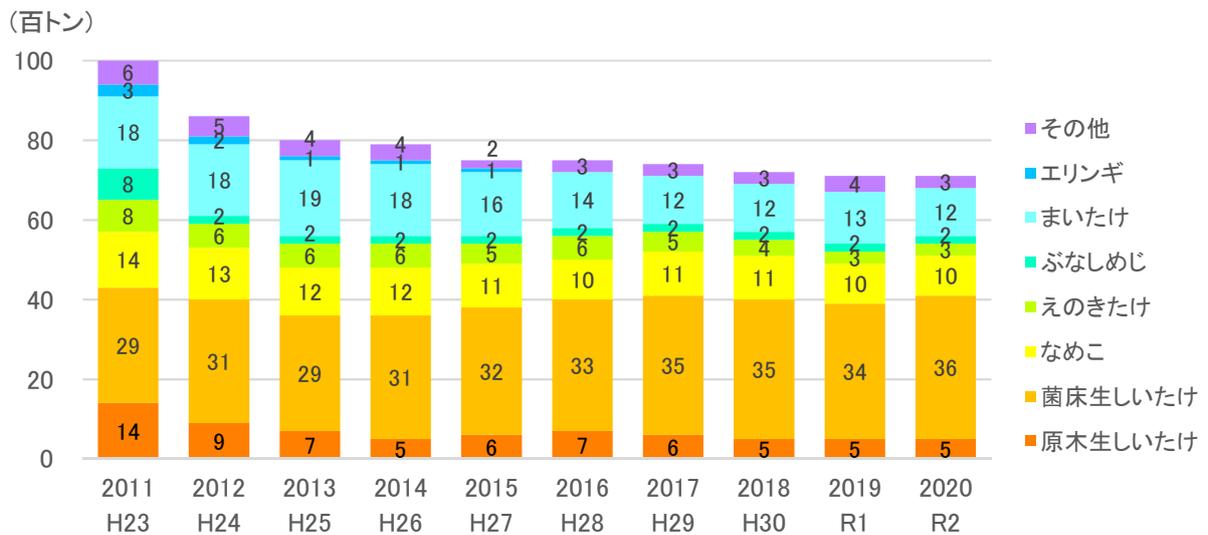
県有林及び県行分収造林の主要樹種の林齢別面積

(2) きのご生産の振興

大消費地である首都圏に近い本県のきのご類の生産は全国有数で、令和2年の生産量は約7,121t、生産額は約48億円となっています。

このうち、生しいたけの生産量は全国4位、まいたけとなめこは6位、ひらたけは7位と全国上位で、その他にもえのきたけ、ぶなしめじなど多種類のきのごが生産されています。

このように本県のきのご類の生産は、農山村地域の重要な産業のひとつとして、地域経済及び就労の場として大きな役割を果たしており、県では生産資材の導入や施設整備に対して支援しています。



県産きのご生産量の推移

また、生産者や関係団体と協力し、安全安心な県産きのごの需要拡大を図るために、県内外で消費宣伝活動を積極的に実施するとともに、きのご料理コンクールやきのご品評会を開催しています。



生産者団体活動支援



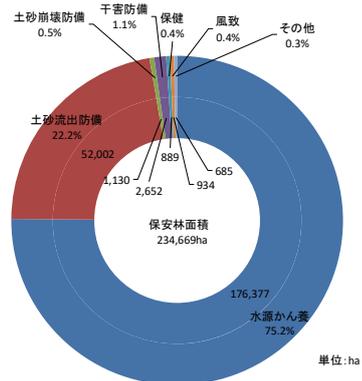
群馬県きのご料理コンクール最優秀作品

3. 森林の保全と森林災害・被害

■ 保安林

県内の森林の55%にあたる約235千haが保安林に指定されています。そのうち、水源かん養保安林が75%、土砂流出防備保安林が22%を占め、首都圏の上流域にあって水資源の確保、国土保全等に重要な役割を果たしています。

- 保健保安林は、その他の保安林と兼種指定が18,725haあり、合計19,614haとなっています。
- 風致保安林は、その他の保安林と兼種指定が629haあり、合計1,563haとなっています。



■ 治山事業

「安心・安全な暮らし」を確保するため、治山施設の設置や森林整備を進め、「災害に強い森林づくり」に努めています。

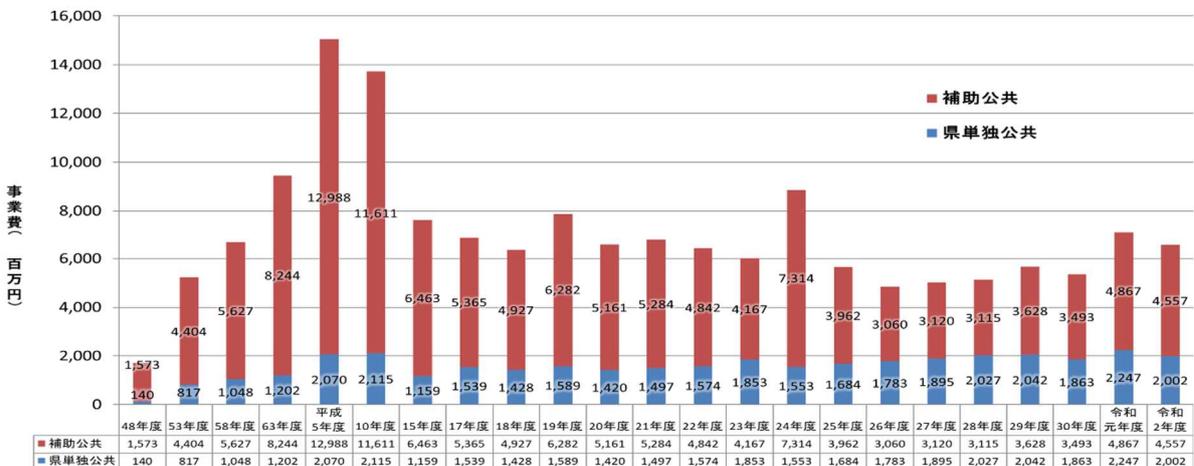


治山事業の実施状況 (左: 渋川市中郷、右: 藤岡市坂原)

山地災害危険地区

危険地区分	危険地区数	治山工事着手地区数 (R2年度末)	着手率 (%)
山腹崩壊	1,773	1,058	59.7
地すべり	161	117	72.7
崩壊土砂流出	2,579	1,979	76.7
計	4,513	3,154	69.9

保安林種類別面積



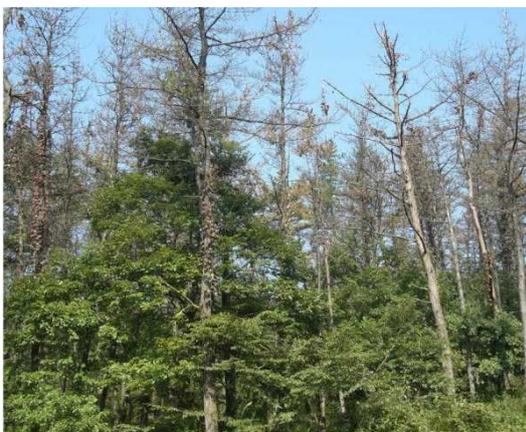
治山事業費の推移

■松くい虫被害

松くい虫被害によるマツ枯れは、昭和53年に県南東部で最初に発生し、現在は、標高の高い地域を除いて県内のほぼ全域に広がっています。

松くい虫駆除対策は、薬剤の空中からの散布や地上からの散布が一般的ですが、群馬県では周辺住民の健康に配慮して平成15年度から空中からの散布を中止、平成20年度からは地上からの散布も中止して、平成21年度からは補助事業の対象外としました。

現在は、将来に渡って守りたいマツ林を選定し、薬剤の樹幹注入による予防対策を中心に防除を行っています。



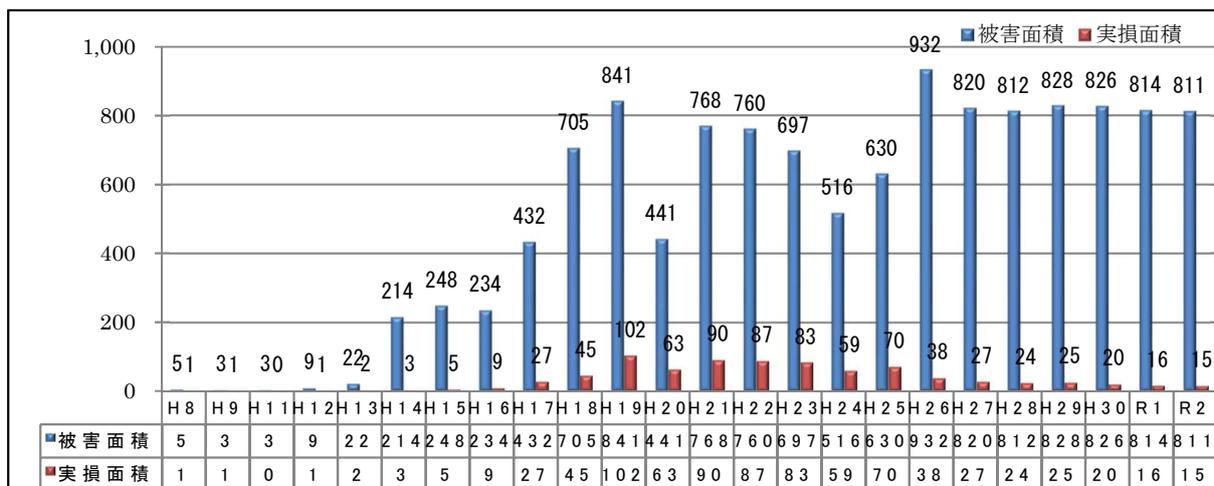
赤城南麓のマツ枯れの状況



薬剤の樹幹注入

■ツキノワグマによる剥皮被害

近年、野生獣類による森林被害の中でツキノワグマによる剥皮被害が広がっています。



ツキノワグマによる森林被害の推移

ツキノワグマは、5月から7月頃にかけて、スギやヒノキの植栽後数十年経過した壮齢林の、収穫間近となった大径木で根元から樹皮を剥がし、木質部をかじります。



ツキノワグマによる剥皮被害

剥皮された樹木は材が変色するなどして商品価値が著しく低下するとともに、大きく剥皮された場合には樹木が枯死し、倒木等による人的・物的被害の発生が懸念されます。

また、商品価値が著しく低下することで、林業経営意欲が失われ、放置される森林が増加し、森林の公益的機能の低下が危惧されます。

生分解性素材などでできた防止帯やビニールテープなどを巻き付ける等の防除対策を重点的に実施したことから、被害額は減少しました。

しかし特に利根沼田地域、桐生地域では依然として被害が多く深刻な状況が続いています。

また、西毛地域にも被害が見られるようになっており、県内全域で被害が発生しています。



剥皮防止のための帯巻き

■ナラ枯れ被害

ナラ枯れは、コナラやミズナラなどドングリのなる木に、カシノナガキクイムシが産卵のため幹に穿孔する際にナラ菌を感染させ、通水機能を損傷させることにより、紅葉の季節より早い8月ごろから葉が縮れたり赤くなったりして枯れる病気です。

群馬県では、平成22年にみなかみ町で初めて発生が確認され、その後の被害は減少傾向で平成26年には一旦被害が終息しましたが、平成27年に再発し、令和2年には民有林で877本が確認されています。

被害木の早期発見・駆除や、「粘着シート」による捕殺等により、被害の拡大を防いでいます。



「粘着シート」による捕殺

4. 県民参加の森林づくり

■緑化の推進

植樹祭や森林環境教育などを通じて緑化意識の普及を図り、緑豊かな郷土づくりを推進しています。

■森林公園

森林が持つ優れた自然環境を保全するとともに、広く国民の保健休養、学習の場として利用することを目的とし、7箇所の森林公園を設置しています。

■森林ボランティア

森林に対する期待が高まる中、森林づくりに参加しようとする人々や企業が近年、急速に増えています。

このため、森林所有者と企業や団体を仲介する「企業参加の森林づくり」や森林整備による「二酸化炭素吸収量認証制度」などを実施しています。

また、平成 26 年 10 月に森林ボランティア支援センターを開設し、刈払機取扱いなどの安全講習会や森林整備作業器具の貸出しなどによりボランティア活動を支援しています。

5. ぐんま緑の県民税

(1) 「ぐんま緑の県民税」の概要

■ 目的

「ぐんま緑の県民税」は、全ての県民が森林から様々な恩恵を享受し、森林は公共的な財産であるという観点に立ち、その受益者である県民全体で森林整備等に要する費用を負担することにより、多様な公益的機能を有する森林環境を維持保全し、良好な状態で次の世代に引き継ぐという目的を持って平成 26 年度から導入しました。

■ 課税方法・期間

県民税均等割の超過課税方式 10年間(平成 26～令和5年度)

税額(年額)

【個人】 700 円

【法人】 法人県民税均等割額の7%相当額(1,400～56,000 円)

■ 納税義務者

【個人】 県内に住所等を有する個人(ただし、住民税が課税されている者に限る。)

【法人】 県内に事業所等を有する法人

■ 税収等の推移

「ぐんま緑の県民税」は、毎年約 90 万人の県民と法人の皆さんに御負担いただくことにより、7 年間で約 57 億円の税収となっています。

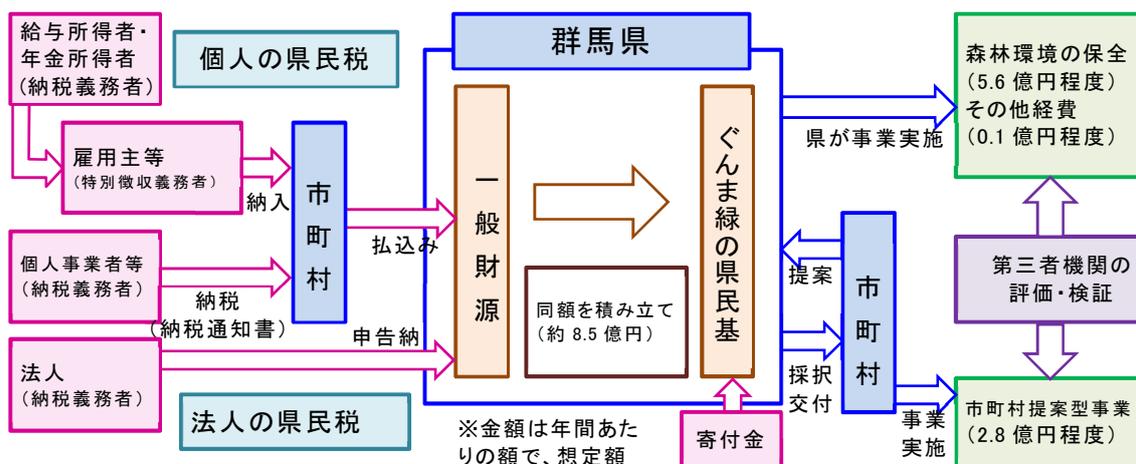
また、この取組に賛同する企業や個人の方々から、ふるさと納税等により約 500 万円の寄付をいただきました。

表 1 年度別の税収と寄付金の推移(予算年度別)

[単位:千円]

区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	計
税収 (税収相当額)	621,445	819,833	830,327	854,400	858,703	864,977	879,323	5,729,008
寄附金	299	1,844	450	138	327	889	1,062	5,009
運用益	11	274	195	151	143	137	50	961
諸収入	-	-	175	737	50	0	66	1,028
計	621,755	821,951	831,147	855,426	859,223	866,003	880,501	5,736,006

■ぐんま緑の県民税の流れ



(2)「ぐんま緑の県民税」の継続

荒廃した森林の整備を進めるため、また、山地災害の増加など森林を取り巻く新たな課題に対応するため、第Ⅰ期に引き続き次の目標に向かって対策を進めます。

目指すべき目標

- ◆ 豊かな水を育み、災害に強い森林づくり
- ◆ 里山・平地林等の森林環境を改善し、安全・安心な生活環境を創造

目指すべき目標を実現するために必要な事業

◎水源地域等の森林整備 <年 5.5 億円程度>

林業経営の成り立たない奥山の森林や簡易水道の水源地の森林整備などを行うことで、水源涵養機能をはじめとした森林の持つ公益的機能の維持・増進を図ります。

<事業内容>

- 地理的、地形的な条件により林業経営が成り立たず放置されている条件不利な森林(人工林)の整備(間伐、針広混交林化など)
- 簡易水道等の上流に位置する森林の整備(間伐、針広混交林化など)
- 松くい虫や気象による被害をうけ、やぶになった森林をコナラやスギなどの森林に再生

事業量(目標) 3,500ha/5年
700ha/年

事業量(目標) 500ha/5年
100ha/年

事業量(目標) 100ha/5年
20ha/年

◎森林ボランティア活動・森林環境教育の推進 <年 0.2 億円程度>

森林ボランティア活動の支援や森林環境教育の充実、森林の重要性の普及啓発などにより、県民参加による森林づくりを一層推進します。

<事業内容>

- ボランティア情報の収集と提供、指導や資機材の貸出など、一体的なサポートを行うボランティアセンターの運営
- 森林環境教育を推進するため、専門知識を有した指導者の養成・育成
- 森林の重要性などの普及啓発

◎市町村提案型事業 <年 2.8 億円程度>

市町村やボランティア団体などが行う事業を支援します。

<事業内容>

- 平地林の整備
- 里山・竹林の整備
- 貴重な自然環境の保護・保全
- 森林環境教育・普及啓発活動
- 森林の公有林化
- その他、市町村が必要とする事業

◎制度運営 <年 0.1 億円程度>

<事業内容>

- 事業の内容検討・実績評価・効果検証を行う第三者機関（評価検証委員会）の運営
- ぐんま緑の県民税制度の普及啓発など

事業の実施に必要な額

<年間 8.5 億円>



群馬県の森林・林業＜資料編＞

1 群馬県の森林資源

(1) 所有形態別森林面積と蓄積(令和3年4月1日現在)

単位:面積ha、蓄積千m3、haあたり蓄積m3

区分	国 有					民 有					合 計
	林野庁所管			その他省 庁所管	計	公 有			私 有	計	
	国有林	官行造林	小計			県有林	市町村有 林	小計			
面積	194,708	298	195,006	969	195,975	6,949	14,326	21,275	209,894	231,169	427,144
人工林 面積	65,001	298	65,299	-	65,299	2,794	9,274	12,068	99,175	111,243	176,542
人工林率	33.4%	100.0%	33.5%	-	33.3%	40.2%	64.7%	56.7%	47.3%	48.1%	41.3%
蓄 積	28,710	52	28,762	-	28,762	1,758	4,427	6,185	63,771	69,956	98,718
haあたり 蓄積	147	174	147	-	147	253	309	291	304	303	231

出典:令和2年版群馬県森林林業統計書

(2) 民有林樹種別森林面積(令和3年4月1日現在)

単位:ha

樹 種	計	スギ	ヒノキ	カラマツ	マツ	広葉樹	その他	
民有林	面積	223,158	63,074	16,372	16,960	12,388	104,899	9,465
	比率	100%	28%	7%	8%	6%	47%	4%
うち人工林	面積	111,253	63,074	16,372	16,960	12,375	1,762	710
	比率	100%	57%	15%	15%	11%	2%	1%

出典:令和2年版群馬県森林林業統計書

2 全国から見た群馬県の林業

(1) 森林資源の全国対比

項 目	単位	全 国	群 馬 県	対比(%)	出 典
総 面 積	千ha	37,798	636	1.7%	令和3年全国都道府県市区町村別面積調 (国土地理院)
森 林 面 積	千ha	25,048	426	1.7%	
うち国有林面積	千ha	7,659	195	2.5%	森林に係る全国の数値 2021森林・林業統計要覧
うち民有林面積	千ha	17,389	231	1.3%	
民有林人工林面積	千ha	7,916	111	1.4%	森林に係る群馬県の数値 令和2年版群馬県森林林業統計書
民有林人工林率	%	45.5%	48.1%		
森 林 蓄 積	千m3	5,241,502	99,078	1.9%	
うち国有林蓄積	千m3	1,225,927	28,691	2.3%	
うち民有林蓄積	千m3	4,015,575	70,387	1.8%	

(2) 森林整備

① 民有林における造林の全国対比

項 目	単位	群馬県の過去5ヶ年の推移					R1年の全国状況			
		H28	H29	H30	R1	R2	全国	1位	2位	3位
造 林 面 積	ha	122	75	156	136	196	22,788	9,570	2,167	1,085
うち民有林造林	ha	99	75	130	109	161	19,540	北海道	宮崎県	岩手県
								北海道	宮崎県	岩手県

群馬県の数値は令和3年版群馬県森林林業統計書、全国の数値は2021森林・林業統計要覧
下段は民有林の総数から旧緑資源機構分を除いたものである。

②民有林における間伐の全国対比

単位	群馬県の過去5ヶ年の推移					全国 H30
	H28	H29	H30	R1	R2	
千ha	2.6	2.3	2.3	1.99	1.99	268

群馬県の数値は令和3年版群馬県森林林業統計書、全国の数値は2021森林・林業統計要覧面積は民有林と旧緑資源機構分を合算した値である。

(3)林産物の全国対比

項目	単位	群馬県の過去5ヶ年の推移					全国 R1	本県 シェア
		H28	H29	H30	R1	R2		
素材生産量	千m3	208	221	234	211	144	18,948	0.8%
	(全国順位)	(26)	(28)	(26)	(29)	30		
うち針葉樹材	千m3	201	212	226	204	135	17,518	0.8%
	(全国順位)	(25)	(27)	(25)	(28)	31		
うち広葉樹材	千m3	7	10	8	7	9	1,836	0.5%
	(全国順位)	(35)	(33)	(35)	(32)	(27)		
生しいたけ生産量	トン	3,608	4,025	3,989	3,967	4,123	70,280	5.9%
	(全国順位)	(5)	(5)	(4)	(4)	4		
乾しいたけ生産量	トン	5	20	19	25	15	2,317	0.6%
	(全国順位)	(15)	(15)	(14)	(12)	(19)		
なめこ生産量	トン	1,208	1,090	1,110	1,031	990	22,199	4.5%
	(全国順位)	(6)	(6)	(6)	(6)	(6)		
まいたけ生産量	トン	1,769	1,224	1,180	1,266	1,193	41,430	2.9%
	(全国順位)	(6)	(6)	(5)	(6)	(6)		

出典：農林水産統計令和2年木材統計、令和2年特用林産物生産統計調査

(4)林道網の全国対比

項目	単位	群馬県	全国	1位	2位	3位	出典
林道総延長	km	2,547	139,680	23,868	7,203	6,104	2021森林・林業統計要覧
	(全国順位)	(17)		北海道	長野県	岐阜県	
うち国有林林道	km	941	46,194	16,376	2,986	2,649	
	(全国順位)	(14)		北海道	青森県	秋田県	
うち民有林林道	km	1,606	93,483	7,492	4,893	4,533	
	(全国順位)	(29)		北海道	長野県	岐阜県	
民有林林道密度	m/ha	7.0	5.3	12.2	9.7	8.3	令和3年度版「民有林林道事業の概要」
	(全国順位)	(13)		佐賀県	富山県	石川県	

(5)林業経営体の全国対比

単位	群馬県	全国	1位	2位	3位	出典
経営体	880	87,284	7,940	4,979	4,662	2015年農林業センサス 農林業経営体調査結果概要
(全国順位)	(36)		北海道	岩手県	岐阜県	

(6)林業産出額

単位	群馬県の過去5ヶ年の推移					全国 R2	本県 シェア	出典
	H28	H29	H30	R1	R2			
千万円	687	711	688	636	604	42,865	1.4%	2021森林・林業統計要覧 令和2年林業産出額
(全国順位)	(24)	(23)	(24)	(24)	(25)			

(7)全国における群馬県の順位

区分	単位	全国値	1位	2位	3位	4位	5位	本県実績	出典	
森林面積	千ha	25,048	北海道	岩手県	長野県	福島県	岐阜県	(21位)	2021森林・林業統計要覧	
			5,538	1,171	1,069	974	862	423		
素材生産量	千m3	18,948	北海道	宮崎県	岩手県	秋田県	大分県	(30)	農林水産統計「令和2年木材統計」	
			2,577	1,868	1,261	1,289	1,148	144		
	針葉樹	千m3	17,518	北海道	宮崎県	秋田県	岩手県	宮城県		(31)
				2,761	1,951	1,238	1,113	1,102		135
広葉樹	千m3	1,836	北海道	岩手県	福島県	秋田県	広島県	27		
			568	281	113	107	90	9		
きのこ総生産量	トン	462,277	長野県	新潟県	福岡県	北海道	宮崎県	13	令和2年特用林産物生産統計調査	
			155,253	101,658	27,507	17,137	11,828	7,121		
生しいたけ生産量	トン	70,280	徳島県	北海道	岩手県	群馬県	秋田県			
			7,912	5,424	4,834	4,123	3,849			
なめこ生産量	トン	22,199	新潟県	山形県	長野県	福島県	北海道	(6位)		
			4,982	4,458	4,355	1,548	1,370	990		
まいたけ生産量	トン	41,430	新潟県	静岡県	福岡県	長野県	北海道	(6位)		
			23,758	5,366	3,904	2,763	2,453	1,193		
ひらたけ生産量	トン	0	新潟県	福岡県	長野県	茨城県	千葉県	(6)		
			1,458	906	672	292	66	50		
桐材生産量	m3	200	福島県	群馬県	0	0				
			127	73	0	0				
林業産出額	千万円	41,865	長野県	新潟県	北海道	宮崎県	岩手県	(25)	令和2年林業産出額	
			5,982	4,810	3,877	2,550	1,782	604		
うち木材産出額	千万円	0	北海道	宮崎県	岩手県	熊本県	大分県	(29)		
			2,793	1,977	1,307	1,142	1,038	172		

群馬県環境森林部行政機構

所属別	所在地	電話番号	事務	技術	計
環境政策課	371-8570 前橋市大手町一丁目1-1	027-226-2811	14		14
気候変動対策課	371-8570 前橋市大手町一丁目1-1	027-226-3271	11	2	13
環境保全課	371-8570 前橋市大手町一丁目1-1	027-226-2831	9	9	18
廃棄物・リサイクル課	371-8570 前橋市大手町一丁目1-1	027-226-2851	16	8	24
自然環境課	371-8570 前橋市大手町一丁目1-1	027-226-2871	13	7	20
林政課	371-8570 前橋市大手町一丁目1-1	027-226-3211	2	18	20
林業振興課	371-8570 前橋市大手町一丁目1-1	027-226-3231	4	15	19
森林保全課	371-8570 前橋市大手町一丁目1-1	027-226-3251	3	19	22
緑化センター	370-0603 邑楽郡邑楽町大字中野3924-1	0276-88-7188		1	1
森林学習センター	377-0102 渋川市伊香保町伊香保637	0279-72-3220		1	1
県庁計			72	80	152
渋川森林事務所	377-0027 渋川市金井395	0279-22-2763	2	13	15
西部環境森林事務所	370-0805 高崎市台町4-3	027-323-4021	4	21	25
藤岡森林事務所	375-0014 藤岡市下栗須124-5	0274-22-2253	3	17	20
富岡森林事務所	370-2454 富岡市田島343-1	0274-62-1535	3	18	21
吾妻環境森林事務所	377-0424 吾妻郡中之条町大字中之条町664	0279-75-4611	3	18	21
利根沼田環境森林事務所	378-0031 沼田市薄根町4412	0278-22-4481	3	17	20
桐生森林事務所	376-0011 桐生市相生町二丁目331	0277-52-7373	4	16	20
中部環境事務所	371-0051 前橋市上細井町2142-1	027-219-2020	4	5	9
東部環境事務所	373-0033 太田市西本町60-27	0276-31-2517	5	8	13
地域機関計			31	133	164
林業試験場	370-3503 北群馬郡榛東村大字新井2935	027-373-2300	2	13	16
合計			105	226	332

※職員数は、派遣を含む(令和3年4月1日現在)



森林ボランティア体験会(憩の森・森林学習センター)

ぐんま緑の県民税を活用し、森林ボランティア体験会や安全講習会など県民参加の森づくりを進める様々な取り組みを行っています。

ぐんま緑の県民税は令和元年度から第Ⅱ期(令和元年度～5年度)がスタートし、水源地域等の森林整備や荒廃した里山・平地林の整備などに取り組んでいます。

ぐんまの森林・林業
令和3年度版
発行 群馬県環境森林部林政課